

newspaper #4

AS Soon

RACE ARCHIVE
Rd.4 AUTOPOLIS

www.inging.co.jp



INTERVIEW

Sho TSUBOI #38

38号車 ドライバー 坪井 翔

良い流れが
来ている
get 3rd!

SUPER FORMULA 2023
P.MU/CERUMO INGING RACE REPORT



news paper #4

SUPER FORMULA
P.MU/CERUMO INGING
RACE REPORT

2023

RACE ARCHIVE

Rd.4 AUTOPOLIS

レースアーカイブ Round.4 オートポリス

決勝 5月21日(日) 5月20日(土)の公式予選では、坪井翔が自身にとって嬉しいキャリア初のポールポジションを獲得。天候:晴れ 路面:ドライ 阪口晴南も復調の3番手と、第4戦オートポリスの予選は午前のフリー走行での不調から見事なり

カバーをみて上位を占め、喜びに沸いたP.MU/CERUMO・INGING。これを決勝レースでのワン・ツーに繋げるべく、チーム

は快晴に恵まれた5月21日(日)に向け準備をしっかりと整えていった。

両者ワン・ツー 好発進でスタート

午後3時からの決勝レースは、気温23度/路面温度38度というコンディションで迎えた。初めてのポールポジションからのスタートとなった坪井だが「思っていたよりも緊張はしなかった」と、程よい緊張感とともにレースに臨んだ。スタートでは坪井が好発進をみせる一方、最大のライバルとも見ていた2番手の#15ローソンがやや伸びない。逆に、3番手から得意のスタートを決めてみせたのは阪口だ。一気に坪井に並びかけ、P.MU/CERUMO・INGINGの2台が先頭に並んで1コーナーへ突入する。イン側の坪井がトップを守ったが、チーム

にとっては首位に坪井、2番手に阪口と続く順位もなかった。

ただ坪井は序盤から、いまひとつ

の阪口も同様だったものの、中高速コースであ

るオートポリスは前走車の空気の乱れの影響が大きく、#15ローソンもなかなか阪口に接近することができず、その間に坪井は少しづつ差を

広げていくことに成功した。そんな流れに業を煮やしたか、#15ローソン

はピットウインドウがオープンしてすぐの13周目にピットに入り、アンダーカットを狙ってきた。

当然、2番手の阪口もこれに対応すべく、14周目にピットインを行うが、#15ローソンのペースが速い。ピットアウトした阪口の鼻先をかすめるかのように1コーナヘアプローチしていく、阪口はピット作業をこなしたなかでの2番手に順位を落としてしまった。

阪口、戦いの末の大ダメージ

一方の阪口はピットアウト後 #5 牧野祐

祐を従え、表彰台を狙う戦いを展開していた。しかし

27周目、#5 牧野との間にピットアウトしたばかりの #53 大湯都史樹が急接近。28周目、ジェット

コーススタートレートと呼ばれる下り坂で阪口にバ

阪口はきっちりインを守り、ターンインに備えていたが、予期せぬタイミングで #53 大湯が左リヤにヒットしてきた。幸い阪口はコースに留まることができたが、左リヤホイールにダメージを負い緊急

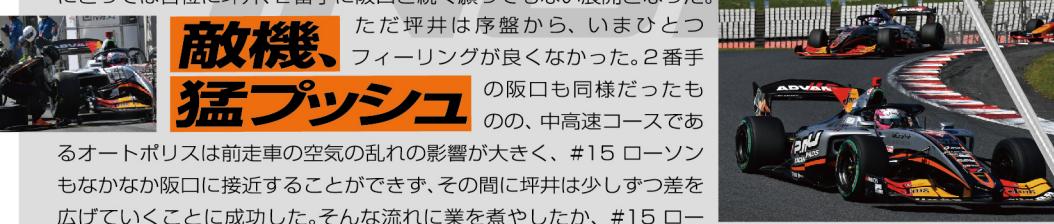
ピットインを強いられ、さらに翌周にはダメージの影響でリタイアを強いられてしまう。#53 大湯はグ

ラベルにストップし、その後危険なドライブ行為としてペナルティを受けた。

縮まる差 追われる両者

そんななか、#15ローソンの前方にはまだピットインを行っていない下位グループ

が近づいてきた。これを#15ローソンは処理していくが、その間にトップの坪井はペースを上げたいところだった。しかし、中盤以降坪井は少しづつペースが苦しくなってしまう。#15ローソン、阪口のピットインにともない2番手に浮上していく #37宮田莉朋が坪井の背後に接近してしまって、#15ローソンとの間に築いておきたい差も足りなくなってしまった。坪井はたまらず25周目にピットインを行い、チームは6.3秒の作業で送り出されたが、#15ローソンがやはり坪井を先行してしまった。とはいえ、これまで諦めるわけにもいかない。#15ローソンに対し、坪井のタイヤはフレッシュ。これを活かし、27周目には自己ベストタイムをマークし #15ローソンに肉迫した。



get 3rd!!

